

第28期社会教育委員の会議

第8回定例会議事録

令和元年7月19日

【1】 開催日時

令和元年7月19日（金）18時30分～20時30分

【2】 開催場所

世田谷区役所第2庁舎5階 第5委員会室

【3】 出席委員

萩原委員（議長）、坂倉委員（副議長）、峯岸委員、神保委員
森岡委員、村上委員、権田委員、山崎委員、吉岡委員、湯澤委員

【4】 出席職員

教育委員会事務局
渡部教育長
皆川生涯学習部長、田村生涯学習・地域学校連携課長
大井社会教育係課長補佐、御園生社会教育担当係長、橋本社会教育係主任

【5】 傍聴人

6名

【6】 次第

- 1 第7回議事録の承認
- 2 議事
 - (1) 課題抽出・整理と方策②と骨子案の検討について
- 3 その他
 - (1) 事業報告

○議長 ただいまから第28期社会教育委員の会議第8回定例会を開催いたします。

初めに、新教育長よりご挨拶をお願いいたします。

(教育長挨拶)

○議長 それでは、次第に沿いながら進めさせていただきます。

まず、第7回議事録案の承認でございます。問題がないようでしたら御承認をお願いいたします。いかがでしょうか。

(異議なし)

○議長 ありがとうございます。それでは、この会議終了後、委員は署名をしていただきますよう、お願いします。

本日の会議は傍聴を申し込みされた方が6名いらっしゃいます。世田谷区社会教育委員の会議傍聴規則に基づき入場していただきます。

(傍聴者入室)

○議長 では、議事に移りたいと思います。本日は、課題抽出・整理と方策②と骨子案の検討となっております。

最初に、事務局から宿題が出ていたと思います。前半、60分から70分ぐらいかけて各委員の皆様にご発表いただきたいのですが、まずは、会議資料2-1と会議資料2-3について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、会議資料2-1『第三の大人の発掘とネットワークづくりに向けた仕組み案』をご覧いただきたいと思います。第6回公開ワークショップを受け、第7回で皆さんからいただいた意見をまとめてみますと、関心を寄せる者同士がつながることでSOSをキャッチでき、困難を抱える当事者とつながることができるのではないかと、つながり合うきっかけとして、区の職員によるコーディネーターが必要ではないかということです。区の職員によるコーディネーターには、まちづくりセンターや、児童館職員というご意見も出ておりましたが、今回は教育行政の施策ということで、社会教育主事、社会教育指導員といった専門性を有した職員に限定させていただいております。

例えば、社会教育主事が現在活動している第三の大人と行政主催のフォーラムやワークショップを企画し、第三の大人の方たちに、新しく第三の大人になり得るのではないかと、いう方たちを連れて参加していただく。そうすると、第三の大人の新規発掘や、ネットワークづくりができる。新規発掘の方がどんどんふえることによって共の世界も豊かになるのではないかと。そういった中で、最初の始まりは行政主導ですが、最終的には、市民主体

のネットワークづくりができ、共の世界のプラットフォームが構築されるという、こんなイメージで事前に議長とも打ち合わせをさせていただいて、つくらせていただきました。

さらに、第27期で出して頂いた「関係性の貧困から脱却に向けた方向性と方策」を具体化していくということで、方向性として、区内に広がる「共の世界を育むプラットフォームをつくる」ためには、日常の「インフォーマルな共の世界を豊かにする」ことが不可欠で、それには「第三の大人を増やし（新規発掘）ネットワークをつくる」ことが重要である。「第三の大人（関心を寄せる者同士）が増えつながらる」ことで「子どものSOSをキャッチ」できるとともに、「困難を抱える当事者とつながらる」ことができるのではないかと。つながり合うきっかけとして、「行政職員（社会教育主事、あるいは社会教育指導員）によるコーディネーター」のかかわりが必要というような方向性を案で出させていただきました。さらに方策とすると、例として示したようなことを書かせていただきました。

ただ、社会教育主事、社会教育指導員というのは、聞いたことがある人もいますが、実際、それがどうかかわりを持った職員なのか、どんな役割を持っているのかということをおわかっていない方もいらっしゃるのではないかと。ということで、会議資料2-3でございます。

社会教育の定義、これは社会教育法の第2条に記載されているものでありますが、「この法律において、社会教育とは、学校教育法または就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき、学校教育課程として行われている教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションを含む。）」と言っています。ですから、学校教育活動を除いたもので青少年及び成人に対して行われるものですが、組織的教育活動でないと社会教育ではないということです。

次に、社会教育主事の役割ですが、簡単に言うと、社会教育主事は、社会教育法に基づき、都道府県・市町村とありますが、特別区も含まれますので、教育委員会に置くこととされている専門的職員です。社会教育主事補は必置制ではないので、置くことができるとなっています。現在、世田谷区では6人社会教育主事がいますが、社会教育主事補はいません。6名とも社会教育主事ということで位置づけられ、地域の社会教育事業の企画・実施及び専門的な助言と指導を通し、地域住民の学習活動の支援を行っています。

具体的には、社会教育法の9条の2とか、9条の3に書かれていますが、特に役割としては、社会教育主事は社会教育を行う者に——行う者とはということなので、住民だけでは

なく、我々の課の同じ職員に対しても専門的、技術的な助言と指導を与えます。ただし、命令及び監督をしてはならないということです。これは社会教育の中では、住民、市民の方たちの学習、あるいは活動の自主的主体性を重んじているということになります。法律に、社会教育関係団体には求めに応じて指導、助言しなければならないということも書いてありますので、我々は命令、監督はしてはならない。しかし、サポートはいいといわれていますので、助言と指導を与えるのが社会教育主事と位置づけられています。

それから、社会教育指導員ですが、世田谷区でも数人います。東京都の社会教育指導員会というのもあるぐらいですから、基本的に23区でも人数はまちまちですけれども、非常勤職員という位置づけで置かれています。簡単に申し上げますと、社会教育主事を補佐し、専門的な助言と指導を行うという立場で配置されています。

それから、期待される役割ですが、こちらは文科省のホームページを見ていただいてもわかりますが、具体的には平成29年8月、社会教育主事養成等の改善・充実に関する検討会というのがありまして、社会教育主事養成の見直しに関する基本的な考え方について報告されておりますが、そこから抜粋をしているのがこの5つの丸です。地域の多様な専門性を有する人材や資源をうまく結びつけ、地域の力を引き出すこと、2つ目に、地域活動の組織化支援を行い、地域住民の学習ニーズに応じていくこと、3つ目に、学習者の地域社会への参画意欲を喚起すること、4つ目に、学習者の多様な特性に応じて学習支援を行うこと、5つ目に、学習者の学習成果を地域課題解決やまちづくり、地域学校協働活動等につなげることとされています。これは文科省が検討会に諮問した形で言われていることなので、世田谷区だけではなく、全国に向けて社会教育主事にはこのような役割が期待されているということがうたわれております。

その背景みたいなところは、また違った参考文献で、この四角の枠の中に示させていただきました。

それから、具体的な図にすると、真ん中に社会教育主事・社会教育指導員を置かせていただきましたが、地域課題の解決などの住民の学びを多様な主体と連携しながら支援していく、これも地域活動団体、第三の大人というふうに入れさせていただいていますけれども、これからはそういう方たちとも密に連絡する、あるいはNPOとか、企業だとか、あるいは同じ行政の区長部局だとか、あるいは小中高校、大学等、そういったところとも連携しながらやっていくことが期待されている。これらを参考にさせていただきながら、関係性の貧困を脱却するためには、社会教育主事、あるいは社会教育指導員がどんなことをし

たらしいのかということを考える上での資料ということにつけさせていただいています。

○議長 ありがとうございます。資料2-3の社会教育主事・社会教育指導員の期待される役割の5つを見れば、まさに今回議論している第三の大人の発掘やネットワークづくりなど、仕事として相当期待されているということです。黒子的な立ち位置にいる職員でもあるので、共通理解がされにくいということもあり、資料をつけております。

では、ここから委員の皆様方に御発表、御提言をいただきたいと思います。社会教育主事、社会教育指導員ということで主語は決まっていますので、第三の大人を発掘するために何をするのか、さらにネットワークをつくるためにどういうことができるかということをお発表いただきたいと思います。では、よろしくをお願いします。

○委員 貧困対策としては、寺子屋など、子どもたちの学力を上げることが必要ではないかと。ただ、関係性の貧困とも兼ねていくと、外に連れ出すことはなかなかできないだろうと感じています。

あと、希望丘中の跡地に新しくできた施設の学習室がとても盛況だという話を耳にしました。ただ、世田谷区内では1つだけなので、遠い子どもたちはなかなか行くことはできない。けれども、自由に学習するニーズというのはかなりあるのではないかと思います。それから、子どもたちに学習を教えるというのをいざやろうとすると、教材はどうするか、資格ではないですけども、能力を持った方が二の足を踏むのではないかとこのことを感じていました。

その中で、今年から中学校でeラーニングが開始されています。簡単に説明すると、1人1人にIDとパスワードを与えて、インターネットが通じるのであれば、どこからでもタブレット、パソコンを使って1人1人が持ったIDとパスワードで入ることで、今の段階では国語、数学、理科、社会、英語の5教科に関して、小学校の段階の教材からその学年までの教材が入っていて、自分で自由に学習ができるという教材です。非常にいいシステムですが、家にパソコンがある家庭は結構いるけれども、実際、やってみると、余り使っていないのです。これはウインドウズ10じゃないと使えないシステムで、ウインドウズ10ではないということでやれていないと。同じく去年パイロット校4校でeラーニング導入を行った段階でもそういう話が出ました。そのときには生活支援保護家庭については補助を出すという形でやってはいますが、スマホは持っているけれども、タブレット、パソコンは使えないというのがあって、学校で全員ログインをして試しても、家に帰ったらできないという状態があります。

それから、不登校で学校に来られない子どもたちには家庭でできるシステムでいいのですが、家にそういう環境がない場合にはできない。じゃあ学校に来てやりなさいというのがなかなか厳しい。そういう背景をもとにして考えたのが、まちづくりセンターや子ども食堂などインターネットがつながるような各地でタブレットなどの機器を2、3台設置することで、段階を低くしてそこに来させると。そこに教材が全部そろっていますので、その使い方、あるいは質問という簡単なものであれば、何か手助けをしたいという要求もあるだろうし、実際にそういう方も多いただろうということなので、同時にそこで学習する子どもたちと何かをしたい、手助けをしたいという方が広がるようにということでカフェとか、子ども食堂と一緒に寺子屋というような形で設けてはどうかと。これはイベントと考えると大々的で、回数もそんなに開けないので、日常的にやりながらも、時にはさらに広めるためのイベントを開くこともいいのではないかと考えて、こういうような形の提案となりました。

○議長 ありがとうございます。後ほど30分から40分ぐらいお互いのアイデアに対して、より一層実現可能性を高め、こういうふうにするともっといいのではないかとか、そういった意見交換をさせていただきたいと思います。基本的な確認だけ、わからない点についての確認だけあれば。よろしいですか。

では次に、委員からよろしいでしょうか。

○委員 学校を利用してもらおうという発想と、お茶が必要だなという発想で「学校カフェでお茶会」というタイトルをつけました。話題を設定して、こんなおしゃべりをしませんかという場の設定が必要かなと思いました。でも、それは答えのない課題や、話題のほうがおもしろくて、ただし、時間を決めて何時から何時まで開設というような呼びかけでどのくらい集まってくるかなというのはありますが、どのくらい集まってくるかの予測として、学校で土曜日に図書館を地域に開放して、小さい子どももオーケー、学校に上がっていない子どももオーケーで、親子参加で企画をします。それを月1回行っているのですが、20人以上は毎回集まってきます。先月も半分くらいは親子連れで来ていたりするので、企画そのものの魅力で来るということと、学校だから来るというのがあるのかなと思ったので、このお茶会も学校だったら来たいと思う人がいるかなと考えました。でも、話題を引っ張っていく人が必要なので、ファシリテーターという言葉でいいのかどうかわかりませんが、そこに区職員と書きましたが、今の場合だと社会教育主事、社会教育指導員の方がそれをしてくださるといいかなと思いました。ただし、必要なものとしては、本当におい

しい飲み物が必要なんじゃないかと、来たくなるようなものがあればいいかなという考えです。

まちづくりセンターと学校が一体となるような学校というのが今少しずつ出てきていますけれども、そのほうがより地域の人々の足が向きやすいかなと。子どもがいない人でもついでにちょっと行ってみようかなとなると、いいかもしれない。

そうしたら、次に、さらにネットワークをつくるためにということで、来た人たちがいろいろなお茶会を企画しませんかというふうにしていくと、誰と話したいのか、趣味が同じ人とかというふうには発案者を募集して、発案した人がその場を仕切っていくというようなことを重ねていけば、その人が第三の大人になっていくのではないかと。やはりやりたいと発案している人が推進力になっていくのがいいのではないかと考えました。

○議長 ありがとうございます。それでは、委員。

○委員 発掘するための仕掛けは何がいいのかというところで、前の会議でも出ていたカフェとか、あと中学生の子どもたちが居場所と、クッキーとか、それこそお茶でもいいのですが、そういうものがあるとつながれるような気がするといったことを聞いたので、食べ物が必要なって思いました。

先ほど委員がおっしゃっていたアップスで物をつくるというところで、高校生の間に小学生が入ってつくっているのをずっと見ていて、自分がやるわけではないけれども、高校生をずっと見ていくというしぐさがとてもよくて、そこは異学年、ちょっと上のお姉さんとか、ちょっと上のお兄さんがいるような場所が提供できればいいなんて思っております。

勉強したいというのは私も賛成で、やはり勉強したいけれども、できない子どもの声が聞こえるので、家ではない誰か違う学年の子がいるようなところで教えてもらったり、学習できるような場所があればいいかなと。そこで何か第3の指導、教えてあげるちょっと上の大人——大人と言うと語弊があるので、もしかしたら小学生、中学生からすると高校生なのかもしれないし、高校生からすると大学生かもしれないですけども、かけ離れた大人じゃなくて、年齢の近い、ちょっと上の大人を発掘できたらいいと思っております。

発掘した人をさらにネットワークを広げるためにはどうしたらいいか、世田谷区でもいろんな活動をして、ぽっぽと活動があるけれども、横のつながりがなくて、いろんな活動をしているが、あれっ、そういうことをやっていたのという気づきがあって、横のつながりがないためになかなか広がっていかないというところがあるので、その立ち上がっているところをどうつなげていくかというのが課題かなとは思っています。

○議長 ありがとうございます。

カフェや学習支援の場を社会教育主事が仕掛けるということによろしいですか。

○委員 そうですね。

○議長 支援の場をどういうふうに立ち上げたらいいかアイデアはありますか。

○委員 場については思いつきませんでした。まちセンだったり、区民センターであったり、キッチンのあるところで、余り広くても困るのかなと。小さくて居心地のいいところはないかな、空き家でもいいけれども、空き家はどうやって活用できるのかなと、そこどまりでいます。

○議長 わかりました。ありがとうございます。

では次に、委員からお願いします。

○委員 人を集めるために、今、話題になっていること、これからみんなが興味を引くと思うことで、1つは教育的な視点と、もう1つは福祉的な視点で2案考えてみました。

世田谷区で去年、教育推進会議、総合教育会議のワークショップでSDGsをされていたので、若者を対象に発掘するため、若者を対象に世界的に広がりを見せているSDGsを使い、「2030年・持続可能な未来のためにー誰も置き去りにしない社会を考えるー」というイベント開催をすることが仕掛けです。

このイベントを通して社会教育主事が中心となり、事前に高校、大学、企業の学生や若手社員に告知して参加を促してもらいます。そして、世田谷区の広報紙、SNSでも告知をし、ファシリテーターとして大学の先生など適任と思われる人材に依頼をする。会の中でグループディスカッションやワークショップなどを取り入れ、参加者に自由な意見を出してもらうとともに、交流を図ります。数回開催の後、具体的な取り組みとしてまとめ、中学校と連携して特別授業のような形で発表、ワークをします。これを複数回します。異年齢の活発な交流と、若者みずから運営して楽しい場をつくるようにコーディネーターはサポートをしていきます。社会教育主事がコーディネーターです。必要な場合、地域で若者支援の活動をしている団体や個人にもかかわってもらう。この活動を通して中学生からおよそ35歳までの若者に豊かな共の世界について体験し、知ってもらいます。また、この活動を通して困難な状況にある子どもの発見に伴って、第三の大人となる若者の発掘と育成を目指すということを1つ考えました。

もう1つは裏面になります。こちらは、子ども・若者の声を尊重する社会に向けてということで、やはりイベントとして、「子ども・若者のアドボカシー（子ども・若者の声を

聞くということ)」というイベントを開催します。さらにネットワークをつくるため、核となる方々に関心がありそうな方を誘うようにお願いします。これは、いただいたフォーマットになぞらえて書きました。互いに継続的につながり合う、支え合うためにアドボカシーの講演会を開催して、さらに関心がある方には学習会やアドボケイト養成講座につなげます。さらには事例検討会などに展開し、今までの活動枠を超えた交流によって、新しい活動、新しい第三の大人の発掘につなげていきます。社会教育主事は、これらの活動が円滑に行われるように助言、サポートします。アドボケイトとか、アドボカシーについては、子どもの声を聞くことをどのようにやるかというイギリスもしくはカナダで行われている手法を用いて、つながるためのきっかけとして使ったらどうかという提案です。

○議長 これは社会教育主事の役割の部分だと思いますが、「異年齢の活発な交流、若者自らが運営している楽しい場となるようコーディネーターはサポートする」と。これは、特別授業の際でしょうか。それともワークショップのとき……。

○委員 ワorkshopの際です。

○議長 ワorkshopの際ですね。そのグループディスカッションやワークショップを開催した際に、社会教育主事や社会教育指導員はそういう場が楽しい場になるようにということによろしいですか。

○委員 はい。イメージとして、中学生も授業でSDGsを少し学んで、それをもって中学生に向けて発表する、それをモチベーションに、若者、大学生、企業の若手の人たちが活動するということですかね。

○議長 ありがとうございます。では、委員お願いします。

○委員 前期でワークショップをいたしましたけれども、思いのほか関心のある方が集まってくれたという事例がございますので、区全体として、ワークショップでのPRや周知がまだまだ足りない部分があると思います。いろんな方の知恵をいただくにも、そういうワークショップをもう少し全体でも開催する必要があるのではないかと思います。この間のワークショップは私どもの地域の参加者は少なかったような気がします。そうしますと、例えば支所ごととか、要するに地域ごとのワークショップの開催というような形。そこで関心のある方との接点ができると思いますから、それもこの間のワークショップを1回きりで終わりというような形ではなくて、やはり複数回やることによって顔見知りにもなるだろうし、その中でネットワークのきっかけになるような出会いとか、接点ができるのではないかと思います。社会教育主事の方々だけではやっぱり難しいので、そこにパ

パイプ役の方が必要だと思います。それには学校や地域や行政に通じていらっしゃる方がつながらり役として加わっていただけたらいいのかなと思いました。

今、包括的支援の場所ということで社会福祉協議会とあんしんすこやかセンターとまちづくりセンターが3者一体となっていますけれども、学校と包括支援センターが近い距離になってくれば、まちづくりセンターなどの施設も大いに活用ができて、地域の方も、子どもたちも余り遠くに足を運ばなくても日常的にふと寄れる場所、そういう環境にいずれなっていけば、そういう場所の活用も大いに期待できるのではないかと思います。

そうすれば、その地域の中で子どもにかかわる人たちがいっぱいいますし、普段から交流がありますから、そうした人たちに協力を仰ぐというような形にしていけば、それぞれの地域ごとでいろいろ展開ができるのではないかと、第三の大人もふやせるのではないかと、思いますし、時には広い世田谷全体での交流もあってもいいと思いますけれども、まずはそれぞれの地域によっても地域性がありますので、その地域に合ったネットワークづくりができるのではないかと思います。

○議長 ワークショップ、そういった開催をするときに、パイプ役として学校、地域、行政に通ずる方々とおっしゃっていましたが、例えば具体的にはどのような方々をイメージしていますか。

○委員 例えば青少年委員や、地域の子どもの事情に詳しいとなると、主任児童委員、民生委員児童委員の方々なんかは子どもたちにも通じていますし、学校にも出入りをしている。それから、まちづくりセンターにも出入りをしていらっしゃるということがあって、場所や事情には通じている。あと、学校の学校協議会に出たり、学校運営委員になったりとか、子どもに関するいろんな団体に入って活動もしていますので、そういう点では適していると思います。

○議長 ありがとうございます。ちなみに、世田谷区は学校支援コーディネーターとか、学校地域コーディネーターは……。

○委員 学校支援コーディネーターがいらっしゃいます。

○議長 学校支援コーディネーターもいらっしゃるんですね。ありがとうございます。

では次に、委員からプリントが追加で配られておりますので、よろしくお願ひします。

○委員 つい先日、子どもの生活実態調査結果報告会というのがありまして、それに参加させていただいたときに非常に強く感じたのは、世田谷型貧困、つまり、貧困が潜在化しているということです。世田谷は、ほかの区あるいは市に比べると、東京都内では数字的

に貧困家庭が少ないという結果が出ている。ですが、それが本当の意味で貧困が少ないのかどうか。つまり、周りが裕福なので、逆にそれを隠したがる親も多い。親も子どもにそういう目をさせたくないということで隠す。子どもも親がそういうことですので、周りの子どもたちに対してそんなことは言わないというのが世田谷型の非常に大きな特徴だろうと、これは大事なことじゃないかと感じました。

社会教育委員として何カ月かやらせていただいて、社会教育というのは何かなということやずっと考えていたのですが、先ほど説明していただいて、あるいは資料をいただいて、ああ、なるほど、社会教育というのはやはり教育だということですよ。社会教育主事は、法的にも役割がちゃんと決まっている。つまり、地域住民あるいはエリアマネジャーを発掘して啓発する。もちろん貧困対象者をどう発掘するか、あるいは、それをどう啓発するかということも大事。それから、一般地域住民が貧困に対してどう考えているのか、それをどう啓発するかということも大切。そして、我々が一番問題にしている第三の大人の発掘、その第三の大人をどう育成するか、そのためにネットワークをつくらうじゃないかということで今我々は議論しているわけですがけれども、そのネットワークをつくることによって、対象者に対する啓発と一般地域住民への啓発も同時にできるのではないかと。やはり社会教育という陰には啓発とか、教育ということにある意味では特化する必要があるのではないかと思います。

では具体的にどうすればいいのかということで、子ども部長から、区の施策として、いろんな子どもに関する、あるいは若者に関する施策の横断的な推進委員会というのが既にあるということをお聞きしました。つまり、公の部分ではそれが動いていると。当然教育の部分もありますし、子ども部のものもありますし、福祉もありますし、保健もありますから、そういう横断的なものはもうできて動いている。では、この公の部分から共にするにはどうすればいいのかという論点が大事かと思いました。

そこで、1から4まで考えてみましたが、やはり一番大事なのは、社会教育という陰には、共の核となる人材の発掘、ポイントになる人物を発掘することだと思います。そのためには、まちづくりセンターの活用が一番大事だと思います。なぜならば、まちづくりセンターが地域の人材の情報を一番持っている。かかわっている方がいろいろおられますけれども、先ほどから出ている青少年に対する、あるいは子どもに対する、あるいは地域の大人に対する情報を持っている。この情報を活用しない手はないと思いました。

そして、これはまちづくりセンターの立場としては難しいのかもしれませんが、

やはりボランティアな人材が誰なのか、核になり得る存在は誰なのかという人を抽出させて推薦をしていただく。そして、それを受け取った行政、社会教育主事がイニシアチブをとってネットワーク会議を開く。そして、関係性の貧困に対する実態の把握と課題の抽出をやって、課題解決に関する協議及び実施を行う。ここで終わったら多分だめだと思います。この次に今まで出ているまちセンカフェとか、私はまちづくりセンターの中にカフェをつくるというのは賛成ですけれども、いわゆる幅広い人材を集めるイベント、カフェ等をつくる、そういう方向がいいのではないかと考えてみました。

ワークシートに準拠すると、コーディネーター、職員の主語は、やはり社会教育主事、発掘するための仕掛けはまちづくりセンターの活用、人材の抽出と推薦、ネットワーク会議。そしてまた、発掘した人を第三の大人にし、さらにネットワークをつくるために、まちセンカフェで人材ネットワークを広げるという図式になると思いました。

○議長 では、委員、お願いします。

○委員 社会教育主事には、テーマを掲げたカフェやサロンを開催していただきます。参加しやすい場所ということで、今お話があったように、学校、まちづくりセンター、地区会館等身近な自分の行きやすいところ、そして、興味関心のあるテーマのところに行って参加をするということで、そこに集まった人たちを発掘していくわけですけれども、その発掘した人を第三の大人にということでは、例えば大学生とか青年男女のようなテーマで集まってくれたとしたら、その人たちが今度は高校生や中学生にかかわる、また小学生に、先ほど勉強という話もありましたので、そういうことでつながりを持つこともできますよというようなことが考えられるかと思えます。

もう1つは、子育て経験のある親たちに対して関心のあるテーマであるということ、今働いている御夫婦が大変多く、子育てのことで悩んでいるお母さんたちも忙しくて、そういう話ができる場所がない、人がつながっていないということがありますので、開催を土曜や日曜にして、子育て経験のある親、あと子育て中の若い親御さんがつながれるように。また、今イクメンということでお父さんがとても多いので、女性だけでなく、男性にも参加してもらえようものということで第三の大人を広げていくといいと思えます。

そして、私が思っているのは、誰かが何かをしてあげる、してもらおうという関係性ではなくて、つながりを持った中でみんな誰かの役に立ちたいというものは持っていると思うので、自分の経験を生かしたり、また、助言をもらってそれを誰かに伝えてあげたりできるようなお互いさまのような関係性が大事。自信を持って人とつながっていくことが難し

くなっているということも感じているので、もっとつながっていける、関係性の貧困というところで私はキーワードにしました。

特に子育て中の親というのは、いろんなことがとても気になりながらも聞けないというところがあって、ネットで調べて子育てをしているようなことも大変多いので、ちょっと助言をもらえば何でもないことなのだと思いますが、貧困の部分でもそうですけれども、子育てに関しても聞きにくい。地域や社会で子どもを育てるという観点からすると、そういう方を対象としたネットワークもいいのでは考えます。

○議長 ありがとうございます。先ほどの委員の御報告、御提案と掛け合わせると、どうも世田谷区は裕福な世帯が多いがゆえに、逆にそのはざまにいてなかなか言えない、言いにくいという親御さんもいるかもしれないということ。

○委員 あとは、子育てに関しては、とても教育熱心な御家庭が多いとは思いますが、それが本当に子どもにとっていいのだろうかというあたりは見えない。いいところを目指してやっている方も多いと思うので、子どもが本当に純粋に子どもらしく育っていくことが将来いいのではないかという思いもあるのと同時に、親同士がつながることで、では一緒にやってみる？と、PTA活動や何かもやりやすくなるのではないかと。全然知らない人の中に手を挙げて入ってはいけませんから、そういう知り合い、横のつながりがふえることで、広がっていったらいいなという願いも込めて発言しました。

○議長 ありがとうございます。では、委員、よろしくお願いします。

○委員 子どもが学校に入ったときに、PTAでいろんな研修会を学校、先生方と相談の上、企画していくわけです。そのときに学校の先生というのは授業を行いながらですので、密に先生とこういったことをやりたいという話をしづらい部分もあるので、まず社会教育指導員、それから社会教育主事の方に望むのは、そういった4月のPTA活動の始まりのときに、それぞれ学校ごとにいろんなお子さん、学校の雰囲気、規模と地域差もある中でPTAの役員になるのも初めての人たちが結構いるので、学校には、例えば過去、こういう研修会をやったというのは当然履歴も残っていますから、その中でこういった研修会をしたほうがいいのではないかと提案をいただいたり、それに伴って講師をどうするかといったときにも、学校の実情に合わせた講師等提案をいただければ、よりスムーズになるのかなと。

第三の大人のネットワークの取っかかりは、いきなりPTAの会長になりますと言ってなっているわけではなくて、推薦を受けますが、推薦を受けるときも、あの子のお父さん

とか、あの子のお母さんというので皆さん入ってきます。あの子のお父さん、あの子のお母さんというのは、私は中学校でしたけれども、小学校のときに見られていて、もっとさかのぼっていくと、幼稚園や、児童館の活動を通じてあの子のお父さん、あの子のお母さんというところからピックアップして呼び集めてきます。

最初の研修会で、よかったなと思うのは、地場産の野菜を持ち寄ってみんなで家庭科室で調理をしながら意見交換をしようというのが私のPTA活動を通じて一番人が集まった活動です。動員したわけではなく、興味があったら来てください、地場産の野菜を使って朝御飯をみんなで一緒につくりましょう、朝御飯をつくるに当たっては、手早く、しかもバランスよくつくることで子どもとも話ができるというのを当時の校長先生と相談の上、開催しました。保護者に声をかけたら農家の奥様もいて、では、うちで市場に出せないものを持っていきますよということで参加費も一応100円ぐらい集めましたが、それ以上の野菜をお土産に渡し、レシピもこちらでお仕着せのレシピをつくるのではなくて、役員が集まってレシピをつくりました。地域の居酒屋のおやじを呼んで、その方が調理をして、1年から3年までの人をうまく振り分けて、1年生は1年生の保護者の悩みがあって、それに3年生の保護者が答えていくと。わからないことは、校長先生の経験者の方が社会教育指導員として来ていただいて、加わってもらって話をして、いいぐあいに大人のネットワークが持てたかなと。右も左もわからなかったのですが、企画が成功したこともあって、その後、PTA活動もうまくできたというのが実感としてありました。その後もPTAの役員として集まって、それが次の代に、次の代にということで、社会教育指導員の先生を巻き込みながら、いい研修会が続いているという気はします。

○議長 先ほどの委員の御提案の根底にある思いとつながって、お互いにもっとフラットに、自由に話ができる関係ができるような場づくりというのが生まれている。

○委員 そのきっかけは、やはり食が多い。学校に家庭科室があるので、あとは学校の先生方の判断でそれを開放できるかどうか。もし学校が難しいのであれば、それこそ教育委員会の社会教育指導員の先生が間に入ってコーディネートして、たまたま研修会で朝御飯をつくるということでしたけれども、今度はケーキづくりとかでもいいです。学校は、当時の校長先生も、できれば保護者にたくさん来てもらいたい、学校を見てもらいたいと思っていたけれども、子どもが中学生になると親は学校に行きづらいけれども、親のそういった集まりがあるということであればいきやすくなる。当然ながら親が勝手にやるわけではなくて、テーマを決めて、それに沿ってやるのが重要になってくるので、それは社会

教育指導員の助言を受け、各学校、各地域の実情に沿って相談をしながらやるというのがいいのかなという気はします。

○議長 ありがとうございます。委員の皆様から御提案いただきましたけれども、副議長からコメントでもアイデアでも……。

○副議長 教育委員会として直接できることで言うと、社会教育主事という方がいるので、ここがレバレッジになる。ただ、第三の大人、共の世界をつくっていくという意味で言うと、期待されているようなパフォーマンスを現状発揮できていないように見えるので、どうにかならないのかというところですよ。

考えたのは、マインドセットを変えたほうがいいのではないかと。マインドセットとスキルセットを変える。要は、社会教育主事はいろんなところに行っていらっしゃるかもしれませんが、すごくぶらぶらしてほしいです。いろんなところにちょいちょいいるみたいな感じにしてほしくて、今は兼務とか書いてありますけれども、今の職業をもうやめちゃって、100%社会教育主事の仕事フルタイムで週7ぐらいやる感じにまずするのがいいのではないかと。兼務を外して第三の大人発掘だけを業務にして、それでも6人じゃ足りないと思いますが、本当に必要ならやったらいいと思います。頑張れだけ言ってもだめだと思うので、ネットワーキングがどうやってできるか。例えばとにかく知り合いを増やすことで言うと、名刺を年間で1000枚なくなるぐらい配るみたいなことをやってもいいと思います。

真面目な話で言うと、コミュニティオーガナイズングという手法があって、コミュニティ・オーガナイズング・ジャパンという協会もありシステムチックに教えてくれますが、何かというと、もともと公民権運動発祥で、オバマが大統領になったときの市民運動をつくったメソッドです。市民活動とか、いろんな当事者を一緒に巻き込んで社会的な動きをつくっていこうというメソッドがあります。自分のストーリーを語ることで自分の課題をみんなの課題にして、みんなの課題を今解決しなきゃいけない、そのアクションはこれだと明確に伝えていくことで、どうせ無理だと思っている人、関係ないと思っている人も一緒に運動にかかわっていこうというプログラムを例えば社会教育主事、社会教育指導員、あるいはプラスアルファ、まず第一歩で巻き込みたい人と一緒にやって、私たちは何ができるのか、誰と一緒にやらなきゃいけないのか、この場合の当事者は誰なのかをちゃんと考えていく。その方々が考えていけるような土壌とか、ツールとか、ネットワークをつくっていくというのが大事だと思いました。

その6人の方は週1で集まったりしていますか。

○事務局 週1は集まってはいませんが、月1回の打ち合わせを。

○副議長 その打ち合わせを報告会ではなくて、これまでどおりのやり方をやっても同じだから、全然違うことをやろうと持っていけたらまず第一歩が変わると思いました。

あとは例えば社会教育主事の人には必ず子ども食堂を運営しなければいけないとか。自分でやればいいわけですね。命令をしてはいけないのであれば、自分でやる分にはそれを妨げるものじゃないはずだから。子ども食堂じゃなくてもいいけれども、自分でやっているものをどんどん応援するみたいな体制にしていくとか、何ならやめて6人でNPOをつくって目指せ5年で世田谷の貧困ゼロという運動をやってもらおうとか、財源がないからクラウドファンディングとかで募って、今の職場にひもづいた働き方を考えると少し狭くなりますが、全部取っ払って考えるともっといろいろできるのかなと。

長くなってしまっただけで済みません、これで最後ですけれども、ここで期待される役割というのが5個ありますが、これは全部できていると思います。例えば学校教育、大学ですけれども、自分の学生以外に地域の人へのセミナーとか、ワークショップをやっていると、それは学校教育ではありません。大学に所属していますけれども、授業ではない教育をしていると社会教育になって、この辺は意外とシームレスなんじゃないかと思います。地域にある立場があって、そこを踏み越えて何かをやろうとするときに、社会教育主事が自分の仕事の内側でやろうとすると結構ハードルが高くなっちゃうと思います。

○事務局 マインドセットと……。

○議長 スキルセット。余り聞きなれていない方もいるので、言葉を説明していただいたほうが。

○副議長 自分の仕事はこうあるべきだ、こういうふうに行動するべきだという行動パターンとか、認識とかというものを、何ができるようになるとか、やっちゃいけないとかじゃなくて、そもそもの考え方を変えたほうがいいという意味と、スキルセットは、学校の先生だと、教育する、行政の方だったら行政事務をしっかり回すみたいな、その人が持っているスキルがあると思いますが、今持っているスキルが必ずしも期待される役割に合っているかどうかかわからないわけですね。そうすると、マインドセットとスキルセットを両方とも入れかえてみることで、できることや、行動が変わってくるという意味です。

○議長 ありがとうございます。では、ここから皆さんに出していただいた御提案のキーワードをホワイトボードに出していただきました。これをベースにしながら、具体的な

方策を既に出していただいているので、報告書にまとめていきますが、掛け合わせるとさらにおもしろいことになるというのもあるでしょうし、貫いているキーワードとしてすごく大事な部分が出てくるよねとか、これはもう少しお互いつなげたり、深めたり、より一層これを具現化するためにこんなことができるかもねとか、そんなアイデアやお考え、御意見があれば、ここから先は肉づけしたり、深めたりしていきたいと思いますがいかがですか。

これは、どれがよくて、優先順位が高いかということを決めたいとは思っていません。どれも生かし合えるような感じなので、ある意味、極端に言えば、これを併記してもいいというか、報告書にどんどん書き込んで、こういう具体的な施策があるじゃないかと提案する方法もあると思います。ただ、今はまず、とにかく出したという段階なので、ここをこうすると、もっと良くなるとか、そんな御意見もあるといいかなとは思いますが、いかがでしょうか。

○委員 出した案としては、今まで子どものことを語っているのに、当事者の子ども・若者の声がなかなか上がってこない、拾われていないということで、子ども・若者にSDGsだったら授業でも取り上げたり、自分たちの将来を、理想の未来を描いて今何をしなきゃいけないかということを考えていく。今のままでいけば2030年には余り望ましい未来がないということがわかっている中で、どうしたらいいかというのを若者自身が考えていくというのはスキルとしてもすごく出てきているので、そういうことをともに学びながらやっていくと若い人も取り込みやすいのではないかな。その若者とともに新しい発想をこの中に入れて、もっと活性化した案や提案が出るのではないかなというような視点ですかね。

そういう意味で、アドボカシーもそうですけれども、もっと多世代な議論が出るような場をつくって、第三の大人とともに、それになり得る人たちを中学生までうまく巻き込んでいくような、1回ではなく、持続的な活動ができていくと、すぐに結果は出ないかもしれないけれども、広がっていくような。なので、最初は小さく始めても、1つの企画で始めてもいいとは思いますが、世の中に興味関心を示してもらわないと、余り人が寄ってこないで、世田谷の特徴はあるので、そういうところをうまくくすぐりながらやるといいと思っています。それをどういう手法でやるか、どういう場でやるかというのをうまくつなげていくといいのではないかなと。

○委員 先ほど社会教育主事が6名、数が多いか少ないかはまた別にして……。

○議長 他区に比べると多いです。

○委員 多いですよ。これだけ出たものをどういうふうにコーディネートしていくか、あるいはプランニングしていくかというのがこれからの問題になると思いますが、基本は、地域の中でみんなで、それをどこでやるのか、どういう方法でやるのか、そういうプラットフォームができればいいということが最終目的だと思います。ただ、こう見ていると、いろんな案は出ていますが、社会教育主事さんとしてできることとできないことがあると思います。それをどう判断するかというのが……。

○議長 ここでは、できそうにないのであれば、どういうことが要素としてプラスされるところではないかという方向で御意見をいただきたいです。

○委員 前回、学校の調理室の話が出たときに、やはり衛生面等で、学校という場はということで、今回、私はさげました。だけれども、今こうやってお話を伺う中で、やはり世田谷区行政がバックアップして、学校をそういうことに使ってもいいですよということに開かれたならば実現可能かなと思直していたりするところがあります。そして、この会議で最終的にまとめたものが近い将来、現実的に、社会教育委員の会議で話し合ったことはこういうことがあります、それを実際にやってみましたというところにきちんと持っていけるようなものを選ぶなり、いろんなものがあってこんなにたくさん出たから、ではここからやってみましょうとか、この中の幾つかを今年はやってみましたとか、実現していけるようなものを選ぶというのも1つではないかと思います。

○議長 そういう中では、委員としては、例えばどんなことがまずはできそうかなと思われるか。

○委員 どうですかね、社会教育委員が仕掛けるとしたら何がいいのかというのは、私の立場ではわからない。やってほしいなと思うことはありますけれども……。

○議長 では、それをおっしゃっていただければ。

○委員 テーマ、場所に関して言えば、参加しやすい場所を提供していただくことと、それぞれに対象者を絞ることを私はしていません。というのは、多様な人材を発掘したらいいのかなと思ったところで、テーマに関しても幾つか御意見をいただきながら設定して、これ1個というのではなくて、子育てや、学生が、子どもたちの悩みを聞いてあげられる場所が展開していったらいいと思っています。

○議長 でも、前回から意見を引き下げた部分として、学校の家庭科室みたいなものを使って何かできないかとおっしゃっていたことに対しては、社会教育指導員が間に入ることでPTAの人を介して学校で実現されていますよね。やろうと思えば可能ということでは

よね。

○委員 P T Aだからできたというところもあると思います。家庭教育学級は世田谷区からやってくださいと言われてやるものなので、参加できるのは学校の保護者だけです。

○委員 そうですね。お手紙はあくまで保護者向けだけだったので、ただ、私自身思っているのは、結局第三の大人になり得る人たち、その根底にあるのは、やっぱり子どもを通じて知り合った人たちがネットワークを将来にわたって形成していくもではないかという気がします。だから、先生を除いた社会教育委員のほかの方も、少なからずどこかで自分の子どもが学校を通じ、もしくは児童館を通じ、かかわった延長で僕は今があるのかなと思っている。小学校に入る前はどこにいるかといったら児童館ですが、児童館は教育委員会の所管ではないですよ。でも、さっきの副議長の話じゃないですけども、例えば場所はたまたま児童館で、所管は違うけれども、やっていることが社会教育だということであれば、児童館も巻き込めるのかなと。行政の縦割りで、そこは教育とは関係ないから違うとしても、社会教育指導員、社会教育主事は横断的にかかわれるということは可能なのではないかと。児童館はたしか母親学級を行っているので、それも恐らく場所はたまたま児童館で、児童館の職員が絡んでいるけれども、地域のおばあさんや指導員、講師、ボランティア、お手伝いでかかわって、子育ての体験をそこで話して、相談に乗るのも社会教育だとするならば、垣根を取っ払うことは可能なのではないかと。子育て、子どもということから大人も一緒にどんどん成長して、子どもは子どものネットワークをつくっていく。大人のネットワークの最初の取っかかりはP T Aだったと僕は思っているので、たまたま僕がいた学校は、社会教育指導員の先生の助言のもと、うまくコーディネートできて、保護者だけでしたけれども、うまくやり切れた。その延長で例えば避難所運営訓練なんかも地域とともにやれたので、それも可能なのかなという気がしますね。

○議長 事務局で用意して下さった会議資料2-3の概念図を見れば、社会教育主事、社会教育指導員を中心として、その周りには首長部局各担当ともコーディネートするとうか、ネットワークをつくる図があるので、副議長がおっしゃるように、もっとぶらぶらできれば、ですよ。

○委員 懸念していることがあるのですが、今の学校の先生方のお仕事の量とか、それから、本来、学校は子どもたちを教育するところで、子どもたちに向けてほしいところが、本当にありとあらゆるいろんなことが先生方に課せられているという現状がある中で、先生方にプラスアルファの負担がかかる形で行われるのであれば、私は通っている子どもた

ちのことをまず、子どもの貧困についての施策ということも大事ですけれども、今の世田谷区全体で子どもたちを指導してくださっている学校それぞれの状況がちゃんと確保された上で行われることであれば、学校を使うのもやぶさかではないとは思いますが、しかし、何らかの形で学校の先生にも負担がいくのであるならば、できるだけ負担がかからないものを考えていけたら一番いいのではないかと考えて、それが心配な点です。学校に毎日のように伺っている中で、先生方は大変な思いをされて一生懸命御指導くださって、それこそ報告書など雑務もふえていらっしゃるし、いろいろなことがおありになるというのを拝見しておりますので、そのところは気になったところでございます。

○議長 負担を軽減させるためにどのような具体的な方策が考えられるでしょうか。

○委員 ですので、その学校の先生方が、この施策をやることによってかなり時間をとられるとか、かかわらなければいけないという状況じゃなくできることであるならばいいのかもしれない。

というのは、学校で開催されることになる、前回も、いろいろな先生方がかかわらなければならぬ現状があるという状況のお話もありましたので、それがなければいいなという心配をしているだけです。ですので、実際、先生方がそれは大丈夫ということであるならばいいかなと思います。

もう1つ、これは学校のこととは別ですが、社会教育主事は、各支所でそれぞれ講座を展開していらっしゃる。ですから、その活用、延長線上でそれぞれの仕掛けをする、それから、それにあわせて第三の大人発掘の仕掛けをして、この指とまれじゃないですけども、そういう接点を持って人を集めていくというのは1つできるかと思っています。

○副議長 つけ加えて、尾山台小学校は、ほとんどまちづくりの、私たちの大事な拠点になっていて、小学校でいろんなことをやっていますけれども、先生方の負担はそれによってふえることは余りない。なぜかという、多分、尾山台小学校自体の全体的なコンセプトとして、地域の力をかりて子どもを育てると。だから、子どもたちが商店街にもどんどん出てくるし、小学生がゼミ生にインタビューをするのに大学まで来て、大学の教室で大学生が小学生のインタビューを受けるみたいなことを普通にやっていたりするし、規模が大きくて、大人が30人集まるワークショップは小学校でやるし、この間は、ゼミ生が学校に戻っている時間がないから、そのまま小学校の教室でゼミをさせてもらったりとか、結構普通にしています。何が違うかという、多分教育は教育、地域のことは別と余り考えていなくて、教育はすごく大事だけれども、教育の質をもっと高めるためには学校の中で

やっても限界があるから、地域の人をいっぱいかりようみたいな考え方がもともとあったので、ちょっと頭の意識が変わると、教育じゃないものは入れちゃだめみたいなものとはまた見え方が違って、運用も変わってくるかなと思いました。

○委員 やり方次第だろうと思いますけれども、心配な部分でもあったので、あえて申し上げます。

○議長 ここではそこを突破するためにどんなアイデアがあり得るのか、そこを考えなければ、多分これはここで終わりです。先ほど来、委員もおっしゃっているように、SDGsで考えたら持続不可能になってしまいます。

○委員 小学校は夏休み期間中も図書館を開放していて地域の方たちも来られます。その場合は特に先生はかかわっていないので、3階の図書館まで行っていいのかと逆にびっくりしたぐらいですけれども、今はだんだんそういうことが行われています。特に調理室に関しては、私も懸念しているところがあります。土日に開催する場合に管理職の先生がいらっしゃらなきゃいけないことになってしまうならば、世田谷区にある区民センターの調理室がたくさんありますが、抽せんだったりしてとれないので、行政の力をおかりして、こういうものを開催しますというときはあらかじめ押さえてもらうとか、そういうところでタイアップしてやっていただければ、かなりのことはできると思います。

たまたま子どもを通じて私たちは学校には行きやすいです。でも、お子さんのいらっしゃる大人にとっては学校が本当に行きやすいかどうかというと、疑問もありますので、まちづくりセンターや区民センターの会議室、多目的室とか、たくさんありますので、そういうところをお借りしてやることも、場所に関しては今後考える余地はたくさんあると思います。ただ、お手紙というか、要は回覧板で来たとしても、たくさんある中で見ると、食いつく人も少ないので、やはり広報の部分で工夫が必要と考えます。

○議長 実施する場所は、多様で、学校、まちづくりセンター、児童館、いろんなところで仕掛けていくことが大事なことではあるでしょうね。

○委員 学校を貸したときに先生が誰もいなくても可能な企画もあるとは思いますが。図書館での企画もそうですけれども、火、電気とか、使うものによって突発的に故障したとなった場合に、そこにほかの責任者の方がどなたかいたとして、その人が対応できるかという心配は1つある。でも、それをクリアするには警備員がいますので、そこら辺の打ち合わせを事前におけばできるかもしれないと。

ただ、副議長が言った話はすごく憧れで、いいなと思いますが、教室がいっぱい

いの学校ではあいているところがないので、学生さんがゼミをするようなところは提供できないかなと。

○副議長 夜とか、夕方以降とか。

○委員 夜なら。あと1つは、子どもの個人情報がある部屋をどうするかという問題はあ
るかもしれませんが、なるほどね。

○委員 ランチルームとかですかね。

○委員 そういう何もないところだったらいいかも。

そして、委員が言っている調理とか、そういうのに関する衛生の面では、感染ということ
に対しての心配は確かにあります。でも、それもうまくやればクリアできるかもしれない
ですが。

○議長 ありがとうございます。委員からもいかがでしょうか。

○委員 関係性の貧困の子どもと考えると、やっぱり不登校というのをイメージする。そ
の子たちをどうつなげていくかということですが、私ははなから学校を使うというのは考
えていません。というのは、その子たちが学校に来られるのであれば不登校になっていな
いし、そういう関係性の貧困ということもないだろうなど。最終的には学校に来させるこ
とを目標にするのはいいと思っていたもので、その前の段階の仕掛けについても、学校で
ないところでやるのが重要ではないかと。学校が大変だからというのもありますが、そ
もそも学校に来られない子に対する対応をというふうに考えてきたものなので、だから
学校を使ってという発想は、全くありませんでした。

○議長 そこに来られないということを前提にすれば、あえて学校ではない場でというの
に意味があるということですね。

○副議長 神奈川の湯河原で居場所づくりをやっていて、すごくいいのが、学校と全く関
係なくやっています。一軒家を借りて子どもがいられる場所になっています。ただ、狭い
町なので、学校には校長先生に言ってチラシを配ってもらったり、先生も関係ないと思わ
ず、たまに様子を見に来るみたいな、それはすごくよくて、校長先生が来年引退だからと
か言って来ていたりとかして、やめてからまたかかわってくださったりとか、あと、今地
域のスタッフをやっている方々が図書館に週1日行ってくださっていて、学校で図書館が
子どもの居場所になって愚痴を聞いて、またこっちの居場所に来てそこで会ってみたい
なこととか、保育園の先生が来ると、ああ、あの何とか君ね、そのときからいろいろ特徴の
ある子だったので、小学校に上がってから心配だったけれども、やっぱり余り行けていな

いのね、だけれども、居場所に来ていると生き生きとしているからいいねと緩やかにつながる。専門同士だけれども、保育園と小学校はそんなに接続もなかったりするし、子どもを軸にしながら大人同士が緩やかにつながるみたいな状況ができるといいかなど。そのためには学校の先生もちょっと外に出て、関係ないと思わないで気軽に来てもらえるといいと思いました。

○委員 学校というのは、やはりハードルがあると思います。衛生上の問題も含めて。

総合型地域スポーツクラブというのが今8カ所あります。それは、学校の施設を使って、基本的には学校とは関係なしに地域で運営している。それを活用するというのも1つの手じゃないかと思います。スポーツという名前がついていますけれども、当然スポーツプラス文化というのがありますので、スポーツだけじゃなくて、東深沢中学校、駒沢小学校、城山小学校、若林小学校、あと幾つかありますけれども、そこは学校とは関係なしに使える。先ほどの御心配を鑑みるならば、活用しない手はないと思っています。

○議長 ありがとうございます。たとえ学校の施設や敷地内での活動であっても、運営主体はまた別の組織としてやればできるのではないかと。

○委員 地域で運営ということです。

○議長 私のほうで少し整理させていただくと、対象も、まず子ども・若者世代、その当事者に直接アプローチしていくのもあるし、あと、子育て中の親御さん同士がお互いに気楽に話ができる、忌憚なく話ができるためのつながれるきっかけをつくるということ。

もう1つは、学校に通じているパイプ役になってくれる人、あるいは行政のパイプ役になってくれるようなさまざまな地域のキーパーソンというのが既にいらっしゃるわけですから、そういった地域の方々も巻き込めるような仕掛けを対象にすることも一つ。

あとは、つなげるきっかけは、1つは食ですね。お茶、お菓子、あるいは地場野菜のような、そういう食が1つ。

あとは学習というのもキーワード。アドボカシーという子どもの声を直接聞いていくということ自体も1つのアプローチなわけですね。そこに社会教育主事や社会教育指導員がどう関わるか。いろいろと条文では規定されているものの、余りそこにがんじがらめになってしまうのも。これも解釈の問題ですね。法律で規定はされているけれども、それをどういうふうに解釈するかということもあって、もっと柔軟なネットワーカーが期待されているのであれば、今までの職場の慣習での仕事のあり方を見直していく。私もいろんな区の社会教育の仕事は見ていますので、やっぱり区それぞれ違います。社会教育主事

は教育委員会のデスクに全然いないというところもあります。いつ電話してもつかまらないです。なぜかといったら地域に出ているからです。常に地域に出ています。いろんなところに行っています。

23区にはないですけども、多摩地区に行けば公民館があります。公民館の館長さんも常に地域に行って、キーパーソンの家に上がって話を聞いたりしている。そういう関係性の中でいろんな方たちをつなげていくことはできるのではないかと思いますので、社会教育主事のあり方、社会教育指導員のあり方というのもまた提言の中に盛り込む必要があるのではないかと。

○副議長 要らない仕事は全部なしというのをぜひ入れたいですね。ちゃんと棚卸をして、研修も大事な仕事だと思いますが、本当に要るのか。それをやめて、実験的にでもいいので、とにかく要らなさそうなものは1年間で限りなくゼロにして、その分、インフォーマルなネットワーキングをつくるのに最大限力をかけたらどれぐらいのことができるのか、ぜひそういうことも含めて変えていきたいですね。

○議長 とりあえずここまでにさせていただきたいと思います。今意見交換した中でも課題とか共通項も見えてきたのではないかと。

○委員 最後に1ついいですか。6人の方が今やっていることを同時にやめてというのはすごく難しいと思います。ただ、これを現実的にやるためには、まず、今年は2、3人ここにかかっていきましょうということであれば、今いる人数の中で徐々に実現していくことができると思います。一度に全部を変えるというのは何事も難しいと思いますが、少しでもこれに近づいていってほしいと思うならば、半数の人はまずやってみるとか、また次の年は逆の人たちがやるとか、そういうことも考えてもいいかなと思いました。

○議長 そういうモデル事業みたいな形で、1年はとにかくやってみよう、うまくいったら広げていこう、それはありますよね。非常に建設的な御意見をありがとうございます。

では、これをまとめて、素案にして、それをまたさらに皆さんにたたいていただいて、肉づけして具体的なものにしていくという作業になっていくかと思います。その次にもう最終案みたいなものができ上がっていかなきゃいけないという結構駆け足ですけども、今日の意見がかなり骨子になっていると思われれます。ありがとうございました。

では、次回の日程を決めたいと思います。

(日程調整)

○議長 では、18日18時半ということでよろしく申し上げます。場所は追って御連絡させ

ていただきたいと思います。

では最後に、その他として事務局から報告があるそうなので、よろしく申し上げます。

○事務局 それでは、議事日程に書いていないもので本日お配りしたものが2点ございます。1つは、『とうきょうの地域教育』で、これは本日届いたものですから議題には入っておりません。委員からお話しのあった「学校内に地域交流拠点『コミュニティハウス』をモデル的に設置する取組に向けて」が取り上げられているのと、世田谷区立用賀小学校PTAが紹介されていますので、御一読いただければと思います。

もう1つ、皆様には封書で入れさせていただいておりますけれども、8月25日日曜日、多摩川の河川敷でアドベンチャーin多摩川いかだ下り大会の御案内及びいかだ審査の依頼というものをつけさせていただいております。昨年5人の方に御協力いただきましたので、また御協力をいただける方、お待ちしておりますので、よろしく願いいたします。

○議長 ありがとうございます。『とうきょうの地域教育』は、「学校内に地域交流拠点『コミュニティハウス』をモデル的に設置する取組に向けて」、東京都の教育委員会として、我々が話し合った活動の例としての多世代の交流サロンであるとか、放課後活動や学習の支援とか、推進する話も出ているのですね。1つこれは追い風ですね。

○事務局 東京都は今年度の取り組みとして1校をモデルで、実施します。

○議長 世田谷でやってくれないかな。

○事務局 今のところ世田谷では声がかかっていないのですが、そういうことになっているようです。

○委員 どこがやるのだろう。子ども・子育て会議で聞いてこよう。

○議長 ありがとうございます。貴重な情報提供ですね。

では、以上で本日の会議は終わりたいと思います。ありがとうございました。